

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

チャバネアオカメムシの越冬調査結果（技術情報第13号）について（送付）
このことについて、下記のとおりとりまとめましたので、業務の参考にご活用ください。

記

1 目的

チャバネアオカメムシは、本県の果樹を加害するカメムシ類の中で、最も被害が大きい。本虫の越冬数（越冬調査による）は、5～7月の予察灯誘殺数と相関が高く、5～7月の発生量の目安となる（図1）。

そこで、本虫の越冬調査を行い、平成20年5～7月にかけての発生量を予測する。

2 調査方法

チャバネアオカメムシの多くは、常緑広葉樹の落葉の下で成虫越冬するが、冬期は体色が周りの落葉とよく似た暗褐色に変化し、また動きが鈍いため野外での発見は困難である。

このため、越冬調査は1地点につき1m×1m×3カ所の計3m²の落葉を集めてふるいにかけて（ふるい法）、大型ポリ袋に入れ、加温ガラス温室に置き、4～6日後に落葉から出てきたチャバネアオカメムシの個体数を計数した。

なお、調査は各地域の定点調査で、チャバネアオカメムシの越冬密度が高いとされている南向き斜面のシイ・カシなどの常緑広葉樹林である。

3 調査期間 平成20年1月

4 調査地点 県内16カ所の定点 熊本市河内町2カ所、宇城市（松橋町、不知火町、三角町2カ所、豊野町）、玉名市天水町、山鹿市、植木町、菊池市玉祥寺、甲佐町、氷川町、芦北町田浦、天草市本渡町、苓北町

5 結果の概要

平成20年冬期のチャバネアオカメムシの越冬数は、県内16地点を調査し、2頭（平年14.0頭）が確認され、越冬地点数は2地点（平年6地点）と少なかった（表1）。

6 考察

（1）19年の合志市栄（農業研究センター）、宇城市松橋町（果樹研究所）、天草市本渡町（天草農業研究所）、宇城市三角町向山（委託）における予察灯およびフェロモントラップによるチャバネアオカメムシの誘殺状況は表2のとおりである。

合志市栄、宇城市松橋町及び三角町向山では、チャバネアオカメムシの誘殺数は、5月～9月まで平年に比べ少なかった。

天草市では、8月中旬まで誘殺数が少なく、8月下旬以降は予察灯が平年比やや多くなり、フェロモントラップでは誘殺されなかった。

（2）環境省の「平成20年春の花粉総飛散量予測」では、昨年春と比較して東日本で1.5倍から3倍、西日本はほぼ昨年並になると予測している。また、熊本市における花粉の飛散量は、前年に比べ少ない（60.7%）と平成20年1月24日に発表した（表3）。

（社）日本気象協会は、九州地域の平成20年のスギ・ヒノキの花粉飛散量が前年7月

の気温が低く、日照時間もかなり低かったことから、宮崎県を除いて平成19年より少なくなると予想している。このことから、チャバネアオカメムシの増殖源である球果の発生も少ないと考えられる。

(3) 以上の結果から、平成20年5～7月におけるチャバネアオカメムシの予察灯やフェロモントラップの誘殺数は少なく、果樹園への飛来が被害も少ないと予想される。

なお、果樹を加害するカメムシ類は、チャバネアオカメムシの他、天草や県南の一部の地域では、ツヤアオカメムシの割合が比較的高いので、シイ・カシ等の常緑樹林（ツヤアオカメムシの越冬場所）の周辺の園では、発生状況に十分注意し初期防除に努める。

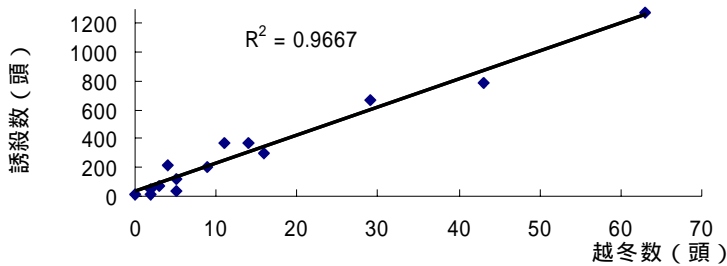


図1 チャバネアオカメムシの越冬数と5～7月期誘殺数との関係

注 平成8年のデータを除く。

誘殺数：予察灯における5～7月誘殺数（合志市）

越冬数：越冬調査16地点の合計値（H4～H18）

表1 チャバネアオカメムシの越冬数（単位：頭 / 3 m²）

調査地点	H20	H19	H18	H17	H16	H15	H14	H8	平年
熊本市河内	0	0	2	0	0	0	0	23	0.3
熊本市河内	0	0	2	0	0	0	4	4	0.9
宇城市三角町	0	0	0	0	1	1	0	0	0.3
宇城市三角町	0	0	1	0	0	0	2	4	0.3
宇城市不知火町	0	0	0	0	0	0	1	7	0.1
宇城市松橋町	1	0	1	0	0	0	0	4	0.2
宇城市豊野町	0	1	3	1	0	0	3	1	1.1
玉名市天水町	0	0	0	0	0	0	2	1	0.5
山鹿市蒲生	0	1	6	0	0	0	22	17	2.7
植木町木留	0	1	3	0	3	0	12	49	1.9
菊池市玉祥寺	0	0	2	0	0	0	2	1	0.5
甲佐町西寒野	0	0	0	0	2	0	4	2	0.5
氷川町大野	0	1	1	0	0	0	1	1	0.8
芦北町田浦	1	0	2	1	1	0	0	2	0.7
天草市本渡町	0	0	19	1	2	0	10	0	2.4
苓北町内田	0	0	1	1	1	2	0	14	0.8
計	2	4	43	4	10	3	63	130	14.0
越冬地点数	2	4	12	4	6	2	11	14	6.0
越冬地点数 (%)	12.5	25.0	75.0	25.0	37.5	12.5	68.8	87.5	37.5

注：平年は平成8年の多発年を除いた平成4～19年の15年間の平均値

表2 チャバネアオカメムシの予察灯・フェロモントラップによる誘殺状況(平成19年)

調査地点 月・旬	合志市		宇城市		天草市		三角町
	予察灯	フェロモン	予察灯	フェロモン	予察灯	フェロモン	予察灯
5・上	0(48)	3(35)	0(73)	0(134)	3(63)	22(113)	-
中	0(9)	0(16)	9(35)	9(100)	5(33)	8(53)	-
下	9(10)	21(59)	0(28)	133(190)	24(27)	13(65)	-
6・上	1(26)	2(65)	0(15)	71(208)	4(19)	2(82)	12
中	0(26)	9(95)	2(33)	99(233)	11(5)	0(52)	16
下	0(29)	30(95)	0(48)	175(408)	16(8)	6(101)	2
7・上	1(48)	4(170)	4(93)	50(869)	16(17)	1(168)	0
中	0(34)	1(150)	1(78)	15(669)	4(62)	0(204)	3
下	1(57)	1(204)	0(109)	18(1,223)	12(87)	0(670)	0
8・上	7(53)	0(118)	1(95)	2(619)	11(237)	0(337)	0
中	6(54)	0(65)	11(132)	5(398)	64(199)	0(151)	0
下	12(86)	1(16)	20(157)	8(67)	333(211)	0(62)	0
9・上	10(138)	0(20)	29(160)	4(257)	408(367)	0(310)	0
中	12(118)	1(18)	33(215)	5(155)	223(147)	0(99)	0
下	3(91)	12(13)	19(95)	5(144)	255(93)	0(83)	0

注：()は、平成10～17年までの誘殺数の平均値(多発した平成18年を除く)

表3 熊本市における平成20年春における花粉総飛散量(スギ、ヒノキの総数)予測
飛散量の単位は個/cm²(1月末から5月)

2008年予測	2007年実測	例年値(10年)	前年比	例年比%
1,420	2,339	1,579	60.7%	90.0%

注)参考資料：環境省 平成20年春の花粉総飛散量の予測(確定版)平成20年1月24日

問い合わせ先	
所属	病害虫防除所
担当	山田
電話	096(248)6490